



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある

年頭のご挨拶



(財)北海道生涯学習協会

会長 宇田川 洋

新年あけましておめでとうございます。
本年も昨年に引き続き、よろしくご指導の程お願い申し上げます。

平成十三年に北海道の委託を受け、北海道生涯学習協会に事務局を置いて開設いたしました「道民カレッジ」事業は、お陰様で平成二十年九月末で、学生数二万二〇〇〇人を超えるとともに、称号取得者も五五〇名に達し、更に最近では二千単位に達したカレッジ生が二名誕生しましたことは、関係各位の温かいご支援の賜であり深甚の謝意を表する次第でございます。

また、昨年四月に官学民からなる「ほっかいどう学検定推進機構」を立ち上げ、当協会が事務局を担って、十月に第一回目の記念となる「ほっかいどう学検定」を実施し所期の目的に達したことは当協会の歴史に一ページを残す出来事でした。

このことは、北海道教育委員会をはじめ各関係機関・団体のご指導・助言の賜と改めて厚く感謝申し上げます。

さて、昨年二月中央教育審議会は、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」を答申しました。その中の、「総合的な「知」が求められる時代」について、社会の変化に対応していくためには、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力、及び他者との関係を築く力に加え、豊かな人間性等を含む総合的な「知」が必要になるとしています。そして、各種要請を踏まえ、生涯学習振興の必要性が高まっていると指摘しています。

当協会としては、このことを踏まえ、今後各種講座等の学習内容や学習成果の質の保証や評価のあり方を検討し、道民一人一人の「学ぶ意欲」を支えつつ生涯学習を通して心豊かな生活を営むことができるよう研修会や講座の充実に努めてまいります。

皆様方のご助言を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

目次

●道民カレッジからのお知らせ	2	●わが町の生涯学習	5
●ほっかいどう学への挑戦	3	●・随想7	6
●私の生涯学習	4	・視聴覚センターからのお知らせ	

『学びから夢が生まれる』
道民カレッジのお知らせ



道民カレッジ
事業について

◇釧路町(根釧圏)

期日 二月十七日(火)
会場 釧路町遠矢コミュニティセンター
テーマ 「町を知り町と共に生きる」
講師 未定

◇鹿部町(道南圏)

期日 二月十九日(木)
会場 温泉旅館「吉の湯」
テーマ 「海と温泉のまち・鹿部温泉を活性化させる」
講師 札幌国際大学観光学部 教授 松田 忠徳氏

◇真狩村(道央圏)

期日 二月下旬
会場 真狩村公民館
テーマ 「食と農で元気なまちとむらづくり」
講師 未定

◎生涯学習協会事業について

◇かでの講座

期日 一月十六日(金)
会場 かでの 七一〇研修室
講師 札幌医科大学保健医療学部 講師 小島 悟氏
演題 「腰痛の起きやすい生活習慣とは」

◇第八回目講座

期日 一月三十日(金)
会場 かでの 七一〇研修室
講師 北海道医療大学薬学部 准教授 堀田 清氏
演題 「漢方から学ぶ病氣予防」

◇第九回目講座

期日 二月六日(金)
会場 かでの 七一〇研修室
講師 北海道大学保健科学研究院 教授 松下 通明氏
演題 「肝臓ガンから身を守る」

◇第十回目講座

期日 二月二十日(金)
会場 かでの 七一〇研修室
講師 北海道文教大学人間科学学部 教授 渡辺 明日香氏
演題 「ストレス対処実践講座」

◇ネットワーク実践講座

期日 一月三十一日(土)
会場 北見市民会館
講師 医療法人財団夕張希望の杜 理事長 村上 智彦氏
演題 「高齢化社会に対応する健康と医療」
地域活動実践事例発表
NPO法人夢の樹オホーツク 代表 平賀 貴幸氏
NPO法人北見ウエルネス健康センター 代表 信清 和志氏

◇札幌市(道央圏)

期日 三月六日(金)・十九日(木)
会場 かでの2・7
講師 ノンフィクション作家 合田 一道氏
実践事例発表者……未定

生きがいづくり生涯学習
促進事業について

今年度も全道十会場で実施いたします。

十月三十日の新得町をかわきりに、十一月十七日の浦河町、十一月十八日の士別市、十一月十九日の中標津町で地元市町の協力の下に盛会裏に開催されました。

今後の日程は一月十九日余市町、一月三十一日松前町、二月十日は厚真町で開催いたします。
その外開催日程は決まっていますが空知・網走・釧路管内でも開催する予定であります。



浦河町会場



士別市会場

この事業は、道民カレッジの連携講座に指定されていますので、皆様の参加をお待ちしております。

「ほっかいどう学」への挑戦

ほっかいどう学検定推進機構

会長 合田 一道



「ほっかいどう学」という言葉が語られたとしても数年になる。

現在は道民カレッジの講座にも「ほっかいどう学」講座が組み込まれていて、次第に定着しつつある。その一方で「京都学」を始めとする地域学が盛んになり、道内でも「わが町検定」を実施する市町村が目立ちだした。

そうした動きを背景に、多くの関係機関の協力をいただき、ほっかいどう学検定推進機構が誕生し、「ほっかいどう学」は動きだした。道民として「北海道をもっと知ってほしい」という、ただその一点が出発点だった。

「ほっかいどう学」はまず、「歴史・文化編」からスタートさせることにした。慌ただしく「公式問題集」の作成が始まった。委員四人が出題すべき原稿を持ち寄り、北海道らしさを出すにはどうするかを論議し、掲載する三百問に絞っていく。時代的に偏りはないか、特定の人物

が出過ぎないか、地域的のバランスはどうかなど検討しながら、何度も校正を繰り返し、五ヶ月ほどで何とかまとめあげた。出版を担当した北海道新聞社出版局の担当者から、「二年がかりの仕事をよくぞ」とお褒めの言葉をいただいたが、本当に神経の使う仕事だった。

「公式問題集」が発売されてすぐ、「飛ぶような売れ行きで、増刷が決まった」と聞いたときは、恥ずかしい話だが、涙が出た。私自身、出版した書物は少なくないが、こんな心境になったのは久しぶりで、改めて初心に立ち返らせてもらったことに感謝した。

ここから新しい挑戦が始まった。どれほどの道民がこの検定試験に応募してくれるのか。なにしろ初めての経験だから事務局の面々も不安を隠せない。とにかく各地の事前研修会に全力で取り組むことにした。

各地の事前研修会は大変な熱気だった。北海道の歴史・文化をとくに若い人に伝えたいと思っていただけに、高校生や大学生の姿に心が昂ぶった。男子小学生が母親と一緒にやってきて、「上級に挑戦したい」と述べたのには、心底驚き、喜んだ。

伸び悩んでいた申し込み数が、締め切り近くになって爆発的に増えだした。事務局は目の回る忙しさだったが、その顔は生き生きと輝いて見えた。当初想定していた千人をはるかに突破し、千六百人に達した。その中に夫婦が十組近くいる。最高齢は八十九歳と聞かされて、多くの道民が「ほっかいどう学」に熱い期待をかけているのを実感した。いや道民だけ

ではない。東京や名古屋、大阪などからも応募がきているという。やった！という心境だった。

検定試験は十月二十六日、道内五ヶ所で開催された。合格者は千三百四十三人。入門は71・2%、上級は98・7%、全体で86・8%という驚異的な合格率である。検定問題自体、けっして易しくはないだけに、これは挑戦した人々の大勝利と判定したい。

「ほっかいどう学」は二年目を迎え、新たに「自然環境」が登場し、前年の「歴史・文化」と合わせて二本立ての検定を実施する。

多くの人々が新たな挑戦をしてくるだろう。こちらも本腰を入れて挑戦しなければならぬと、いまから期待に胸を膨らませている。



札幌会場

地域に根ざし、福祉とビジネスの両輪を力強く

北海道リハビリ

札幌フックセンター
TEL (011) 885-1801 FAX (011) 885-2000

リハビリ・グリーナーズ
TEL (011) 375-2112 (代) FAX (011) 375-4052

リハビリ・エイト
TEL (011) 375-2116 (代) FAX (011) 375-2115

リハビリ・おそろ
TEL (011) 375-2112 (代) FAX (011) 375-4052

社会福祉 北海道リハビリ 株式会社
〒061-1195 北海道広島市西の里507番地1
TEL (011) 375-2111 (代) FAX (011) 375-4051 www.saito.net
理事 奥野 一之 常務理事 平沼 栄二

いい仕事しなさい

since 1986
sandosanryo

山藤三陽印刷株式会社
〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

[営業部] 代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173
東京支店 / 電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633
苫小牧営業所 / 電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423
千歳営業所 / 電話 (0123) 26-3555

私の生涯学習

「道民カレッジで学んで。」

苫小牧市 占部 一誠

カレッジに入学したのは、確か平成十四年である。入学のきっかけは連携講座の大学セミナーに出席をしたところ、年配の人たちが熱心に聞き入っている姿を見て、カレッジは何をするところか、の興味からである。

しかし本格的に学習に取組んだのは、放送講座のスクーリング（今は無い）に参加して、熱心な参加者から刺激を受けたからである。地方に住んでいるものにとって、札幌の大学等の連携講座に出席することは、時間的にも経済的にも負担が大きい。近くで行われる出前講座には極力出席するようにしているが、いつも出席者の熱心さに打たれる。

カレッジでの生涯学習を自分の生活へどのように取り入れるか、出席し単位を取得することに専念するか、で悩んだ時期があった。

しかし、かでの「講座が始まり考えが一変した。我々世代の大きな関心事は健康であり、国民健康保険料の負担増である。健やかに老いるための努力は決して易しいものではなく、努力を継続する苦しきは大変なものである。」

これらを見事に解決への道を見つけてくれたのが、かでの「講座」である。

老化は足からのとおり筋力低下は驚くほど早い。この筋力低下を防ぐトレーニングを講座で学んだ。

継続する為には記録が大事なことも学んだ。筋肉トレーニング十八種類、ストレッチング十九種類五〇〇動作をカレンダーにして毎日約一時間三十分で行う。また、年をとると呼吸器官へ負担を掛けないとの指摘から、腹式呼吸を心がけて吐息を丹田に入れる練習を読経のたびに行っている。

料理についても、男の料理教室に行くのはどうもと考えていたとき、かでの「講座で実際の勉強をさせてもらった。料理をマスターしたわけではないが、レシピを見ること、自分の腕と味を見つめるに、自分なりのレシピをつくることに興味を持つことが出来た。」

かでの「講座や地元で行われる地方の問題を話題にする連携講座、専門家による健康問題などはアレンジして自己流に自分のものにして楽しんでいってよいだらう。肩の力を抜いた北海道の古文書の講座は認識を新たにし、更なる興味をもった。」

これからも、かでの「講座の企画に期待したい。」



「ほっかいどう学」検定に

取り組んで

札幌市 町田 宏子

「では始めてください」と検定監督官の声。どんな問題だろうとドキドキしながら開いてみた。「あつ、あれだー！」どれもこれもスイスイと答えることができる。

事前講習会でお聞きした通り、公式問題集 Question の問題文がそのまま載っているからだ。これは絶対落ちるわけにはいかないなーと思いつつながら鉛筆を走らせること十一分全問を終了した。

鉛筆を置くと同時に「ほっかいどう学」の実施を初めて耳にした時のことを思い出した。私は受験することを即決したのだが、それは以前から北海道の歴史をもっともっと勉強したいと思っていたからだ。そして一人で取り組むより二人の方が楽しみながら勉強できると夫を誘った。

即OKで早速二冊の問題集を購入時々問題を出し合いながら十月二十一日を楽しみにしていた。

外出の時はバックに入れ、乗り物の中で開いて読んでいた。曖昧に覚えていたことが多々あり、今回訂正することができたことも嬉しかった。当日の解答様式の形式は分からなかったの自分で流の用紙を作成し、記入の練習もしてみた。年代別にも分けてみた。

又、Answerに出でくる解説文を読みながら、もっと詳しく調べてみ

たいなーと思ったりもした。

文化編はちょっと苦手だった。何故なら普段まるで興味の無いことが数箇所あったからだ。代表的なのは、①将棋の棋士名、②囲碁の棋士名である。初めて出会った名前だった。日常的にもっと幅広く見たり聞いたりしなくてはと反省もさせられた。

振り返ってみると、楽しく張り合いのある数ヶ月だった。そして、北海道全体を捉えながら勉強できる機会をもてたこと、詳しく調べてみたいと思うことに出会えたことは私の今後の勉強の目標ができたようで幸せなことだと感じている。

平成二十年度は、「合格」素直に嬉しい。

さて、平成二十一年度は「歴史・文化」に「自然環境」が加わるとのこと。又取り組んでみようかと思っている。

今度は四択ではなく事実として残されている資料の中から、例えば時代背景や戦いの歴史、諸外国との関係、開拓にかかわった人たちの生き様等々、単に暗記ではない勉強をし、その結果を生かせる検定内容を期待している。

さあ、今年も楽しもう。



わが町の生涯学習

伊達市の生涯学習

「世界に誇る遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』を学ぶ」

十月十八日(土)に伊達市の史跡北黄金貝塚公園とコミュニティセンター「はまなす館」において、道民カレッジ「ほっかいどう学」出前講座を開催しました。

テーマは「世界に誇る遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』を学ぶ」とし、縄文時代の遺跡である北黄金貝塚での「縄文ロビー講座」と「フイールドワーク」、会場を移しての講演会の三部構成で行いました。



現在、北海道と青森・秋田・岩手の四道県は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への登録を目指しています。遺跡群の中には伊達市の北黄金貝塚や洞爺湖町の入江・高砂貝塚の二つの国指定史跡も含まれています。これらの縄文遺跡は、太古の人々の暮らしぶりを知るための情報が詰まっているだけでなく、貝塚や墓、祭祀場といった縄文人の思想・哲学が現れている場所でもあるのです。

今回の出前講座は、世界に誇る遺産を地元の道民が学び、世界遺産登録へ向けた気運を高めることを目的に企画しました。

折しも、開催直前の九月末に縄文遺跡群が世界遺産の国内候補となるとの決定が文化庁によりなされたことから、住民の関心も高まった中で開催となりました。

三部構成の中のメインは、NHK解説委員の毛利和雄氏による講演です。

毛利氏は、長年文化財報道に携わり、これまでの日本各地の世界遺産登録に向けた動きについて、取材されてきました。講演では、縄文遺跡群は国内候補とはなったものの、ユネスコへの申請は年に一件のみのため、順番を待たなければならぬこと、その間に文化庁から示された課題を解決しなければならぬことな

どが話されました。課題とは、登録する遺跡の範囲を北海道と東北三県だけでなく、さらに広げるべきではないかということや、縄文文化が日本の文化的伝統の源流であると確実に示す必要があることなのです。



参加者からは、質問が相次ぎ、世界遺産登録についての関心が高いことがうかがえました。

これからも、このような機会を多く持つことにより、地域の気運を高める必要性があることを感じました。

伊達市噴火湾文化研究所
学芸員 青野友哉

事務用品・オフィス家具・OA機器
教育機器 販売

有限会社 **オフィス・ノルテ**

〒005-0006
札幌市南区澄川6条6丁目2-5
TEL 011-811-9958
FAX 011-811-9959

随想⑦ 「奇遇」

常呂町にいた一九九六年のことである。網走に用事があり、その帰りに各地の日本酒をたくさん置いてある酒屋さんに立ち寄った。ご主人は、その日は酒蔵めぐりで不在。女主人が対応してくれた。「日本酒が好きなんですか?」「はい。そんな会話から始まる。そして次の質問は「どちらからお出ですか?」「隣り町です」。その会話の後には酒瓶とにらめっこ。しばらく無言の時間が過ぎる。しばらく経ってから、突然、女主人が声を発した。「常呂の宇田川さんではありませんか?」「えっ!そうですか?」。

「えっ!そうですか?」と顔をみつめた。思わずじつと顔を見つめた。次第。「どうして私のことを知っているのですか?」「五年ほど前、温根湯で先生の講演を聞いたのです」。

それでその女主人のことを思い出したわけではないが、事情は理解できた。一九九〇年五月の網走管内PTA指導者協議会での講演のことである。日本の教育組織の基本を確立したあの森有礼の孫にあたる森有正の生き方を引き合いにして話をしたことを思い出す。

森有正は、いわゆる血筋と家柄が良く、東京大学のフランス文学の助教授でもあり、「予定されてい

たアイデンティティ」を背負った「エリート」であったと言われる。一九五〇年に三十九歳でパリに留学し、二十六年間そこで暮らした後、パリで死んでいるとのこと。

そんな彼が、人生を、人間を語っている。例えば「僕たちは、人間が幾億人いようと、自分であって絶対に他の人とは置き換えられない人間にならなければならぬ。僕はこの人間の存在の極限に追い詰められたことを喜び、また悲しむ」そんな哲学を引用しての講演会であった。

その時、PTAとしてその女主人が参加していたという話である。世間は狭いもので、奇遇というのはあるものだと思感した次第である。皆さん、悪い事はできないもの。その酒屋で買った酒は「宗玄」という純米酒であったが、それは石川県能登半島の先端部にある珠洲(すず)市の宗玄酒造の地酒で、同じ年に旅行した時に呑んだものである。旅行先の金沢の知人が土産に持たせてくれた私好みの珠洲焼きの猪口でその夜は一杯呑んだ次第である。「奇遇」の思いを看にして。

(財)北海道生涯学習協会 会長 宇田川 洋

視聴覚センターからのお知らせ

視聴覚センターでは、収蔵する約五千タイトルの視聴覚教材(ビデオ、DVD、十六mmフィルム)を無料で、全道の皆さまにお貸ししています。ここでは、平成二十年度に整備した教材からご紹介します。

- 「バイオ燃料」(DVD)
「知っておこう!小学生の携帯電話」(DVD)
「火あそびは火事もと」(DVD)
「メタボ撃退!実践シェイプアップ」(DVD各二巻)
「社内いじめとパワーハラスメント」(DVD)
「いじめから逃げない」(DVD)
「悪徳商法とは」(DVD)
「セクシャル・ハラスメント」(VHS)
「蟹工船」(DVD)
「昭和三十年代の日本・家族と幸福」(DVD)
「情報端末のわな」(VHS)
「働く子どもたち」(VHS)

※くらぐWEBで申し込み

視聴覚センターの教材は、WEBから借用の申し込みをし、宅配便で受け取ることができます。詳しくは左のアドレスにアクセスを! http://manabi.pref.hokkaido.jp/

お問い合わせ.....
電話 〇一一二三一四一一一 (三六一三四三三)
FAX 〇一一二八一六六六一

新会員紹介

次の方々が新たに賛助会員になりました。今後ともよろしく願っています。
個人会員
山下 孝 将(札幌市)
川原 征一(小樽市)
高野 勝重(小樽市)
(敬称は略させていただきます。)

事務局からのお願い

本年度の会費納入について、誠に恐縮ですが、賛助会費未納の方は納入についてご協力をお願いします。また、会員の皆様で住所を変更された方は事務局までお知らせ下さい。

編集後記

あけましておめでとうございます。
昨年は、会員並びに関係者の皆様の温かいご支援とご協力により事業も順調に実施することができました。心よりお礼申し上げます。
昨年は、当協会が事務局となり記念すべき第一回目となる「平成二十年度ほっかいどう学検定」が各方面より多くの支援を受け十月二十六日、全道六会場で実施しました。事務局としては、初めての取り組みで手探り状況でしたが、お陰様で一五〇〇人以上の受検者が集まり、所期の目的を果たすことができました。感謝!
本年も当協会は、事業の充実を図りながら北海道の生涯学習の推進に努めて参ります。皆様にとりましても一層の飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。